

第50回(2006年度)石油技術協会賞 論文賞および業績賞を受賞 ～ベトナム・ランドン油田での地質技術および環境対策が評価される～

記者各位

当社(社長:西尾 進路)グループの石油開発部門である新日本石油開発株式会社(社長:大森 輝夫)は、「第50回(2006年度)石油技術協会賞」において、論文賞および業績賞を受賞いたしましたのでお知らせします。

今回は、「ベトナム・クーロン堆積盆地の15-2鉱区における湖成根源岩(こせいこんげんがん)※1・産出油」が論文賞を、「ランドン油田随伴ガス回収・有効利用プロジェクトのCDM登録」が業績賞をそれぞれ受賞しました。

「石油技術協会賞」は年に1回、幅広く石油開発技術の進歩・発展に貢献し、優秀な功績のあった技術開発者および石油開発会社を顕彰するものです。論文賞、業績賞、報告賞の計3賞で構成されておりますが、うち2賞で当社グループが受賞したことになります。

「ベトナム・クーロン堆積盆地の15-2鉱区における湖成根源岩・産出油」の論文では、ベトナム・ランドン油田の操業生産において、効率的な油層管理※2を可能にする手法を明示しており、今後、他の油田においても探鉱、油田の開発および生産オペレーションへの貴重な指針となることが高い評価を得ました。

また、「ランドン油田随伴ガス回収・有効利用プロジェクトのCDM登録」の業績に関しては、随伴ガス回収・有効利用によるCO2の削減プロジェクトとしては、世界初、世界最大であり、世界の石油開発の歴史の1ページを飾るに相応しいものと極めて高く評価されたの受賞となりました。

当社は、グループ経営理念として「New ideas」「地球環境との調和」を掲げており、今回の受賞は、その経営理念に沿うものでありますが、今回の受賞に慢心することなく、今後もたえず新しい発想で未来に挑戦し、ビジネスを創造することで、世界をリードし、人々から最も支持される総合エネルギー企業を目指してまいります。

※ 1: 湖に堆積した後、地中に埋没、温度と圧力の影響を受けて炭化水素(原油・ガス)を生成する有機物の含有量に富んだ岩石のこと。

※ 2: 油田において、対象油層からの採収率を高め、所定の生産計画を達成することを目的として、生産操業条件を調整し、必要に応じて抗井の追加掘削や改修を計画すること。

以上

<受賞概要>

(1) 受賞テーマ

論文賞「ベトナム・クーロン堆積盆地の 15 - 2 鉱区における湖成根源岩・産出油」
業績賞「ランドン油田随伴ガス回収・有効利用プロジェクトの CDM 登録」

(2) 受賞者

論文賞：新日本石油開発株式会社 探鉱部 島田昌英
同 トリポリ事務所 青山威夫
業績賞：新日本石油開発株式会社

(3) 石油技術協会の概要

石油・天然ガスの採取事業にかかわる技術の進歩と会員相互の親睦を図るために設立された学術団で、2006年3月現在で1,685名の会員数（賛助会員77名含む）を有している。

(4) 過去の受賞歴

2000年度（業績賞）：「ベトナムにおける石油の探鉱・開発事業」
2004年度（業績賞）：「マレーシア国サラワク沖合 SK - 10 鉱区におけるガス田開発」



（左：探鉱部・島田昌英、右：常務取締役・福岡和文）

新日本石油開発株式会社の 100%子会社である日本ベトナム石油株式会社は、ベトナム海上 15-2 鉱区において、1998 年より「**ランドン油田**」の生産操業にオペレーターとして従事している。本事業の 2006 年 4 月末現在の累計生産量は 1 億 2 千万バレルであり、順調に生産を続けている。

(論文賞)

「ベトナム・クーロン堆積盆地の 15 - 2 鉱区における湖成根源岩・産出油」

定期的に計測している油層圧力データから、ランドン油田はいくつかに分断されていることが解っており、油層管理が難しい油田である。

本論文では原油の性状(化学組成)が地域によって異なっている事実に注目し、化学組成の相違と油層の分断化に相関性がある事を明らかにした。この成果により、今まで継続して油層の圧力データを収録し、その解析にも相当の時間を費やしていたが、今後は長期の生産状況をモニターすることなく、生産開始時に分断化されているか否かを予測できる可能性があり、適切に油田を管理するための新たなデータ解析手法となる事が大いに期待される。

(業績賞)

「ランドン油田随伴ガス回収・有効利用プロジェクトの CDM 登録」

1. プロジェクトの概要

ランドン油田(海上)での原油生産の際に発生する随伴ガスは、従来、海上で燃焼させていましたが、この随伴ガスを回収し、新たに海底に敷設したパイプラインにより、発電燃料としてベトナム国内の発電所に供給します。これにより、既存の発電燃料の消費を削減でき、約 680 万トン(年間 68 万トン)の CO₂ 削減が可能となります。

今後は削減量の実績値を確定する審査の後に、正式に排出権が発行されることとなります。

2. プロジェクトの特長

(1) CO₂ 削減として世界最大

CO₂ を削減するプロジェクトとして、これまでに承認を受けた CDM は、最大でも年間約 30 万トンでしたが、本プロジェクトは、年間約 68 万トンの CO₂ の削減が見込まれ、CO₂ を削減する CDM としては世界最大となります。

(2) 随伴ガス回収・有効利用として世界初

当社は、ランドン油田において、世界に先駆けて随伴ガス回収・有効利用の CDM を手がけ、その方法論(国際ルール)を自ら提案いたしました。当社の提案は、CDM 理事会の承認により世界初の当分野の方法論として確立され、今後、世界各地の随伴ガス回収・有効利用による CO₂ の削減に地球規模の貢献ができるものと考えております。

なお、本プロジェクトにおいて、当社は、方法論の確立、CDM のプロジェクト設計書の作成、日本政府承認、CDM 理事会への申請・承認に至るまで、全工程を自社で行いました。

